

業務資料 No. 125

昭和 43 年度分

巡 回 診 療 報 告 書

1970 年 3 月

海 外 移 住 事 業 団



国際協力事業団

受入 月日	'84. 4. 11	703
		98
登録No.	03352	EM

序

海外移住事業団では、移住地援護業務の一環として中南米各国の奥地に散在する邦人移住者を対象に、保健・衛生に関する相談・指導及び衛生思想の普及をも併せ、定期的に巡回診療を実施しておりますが、この度、昭和43年度実施分(43・4～44・3)の報告を取り纏めましたので参考に供します。

移住地の医療衛生につきましては、事業団としても、重大な関心と熱意を傾注している次第であります。この報告書が、医療衛生向上の一助となれば幸甚です。

又、巡回診療では、平常の援護業務においては接触の少ない奥地散在移住者を訪ずれることになり、各巡回地の概況も貴重なる資料となり得るものと思っておりますので充分御利用いただければ幸いです。

最後にサンパウロ及びベレーン両移民援護協会はじめ、巡回診療に御協力下さいました方々の御苦勞に対し、敬意と謝意を表すものであります。

海外移住事業団

業務才二部長

JICA LIBRARY



1025861[4]

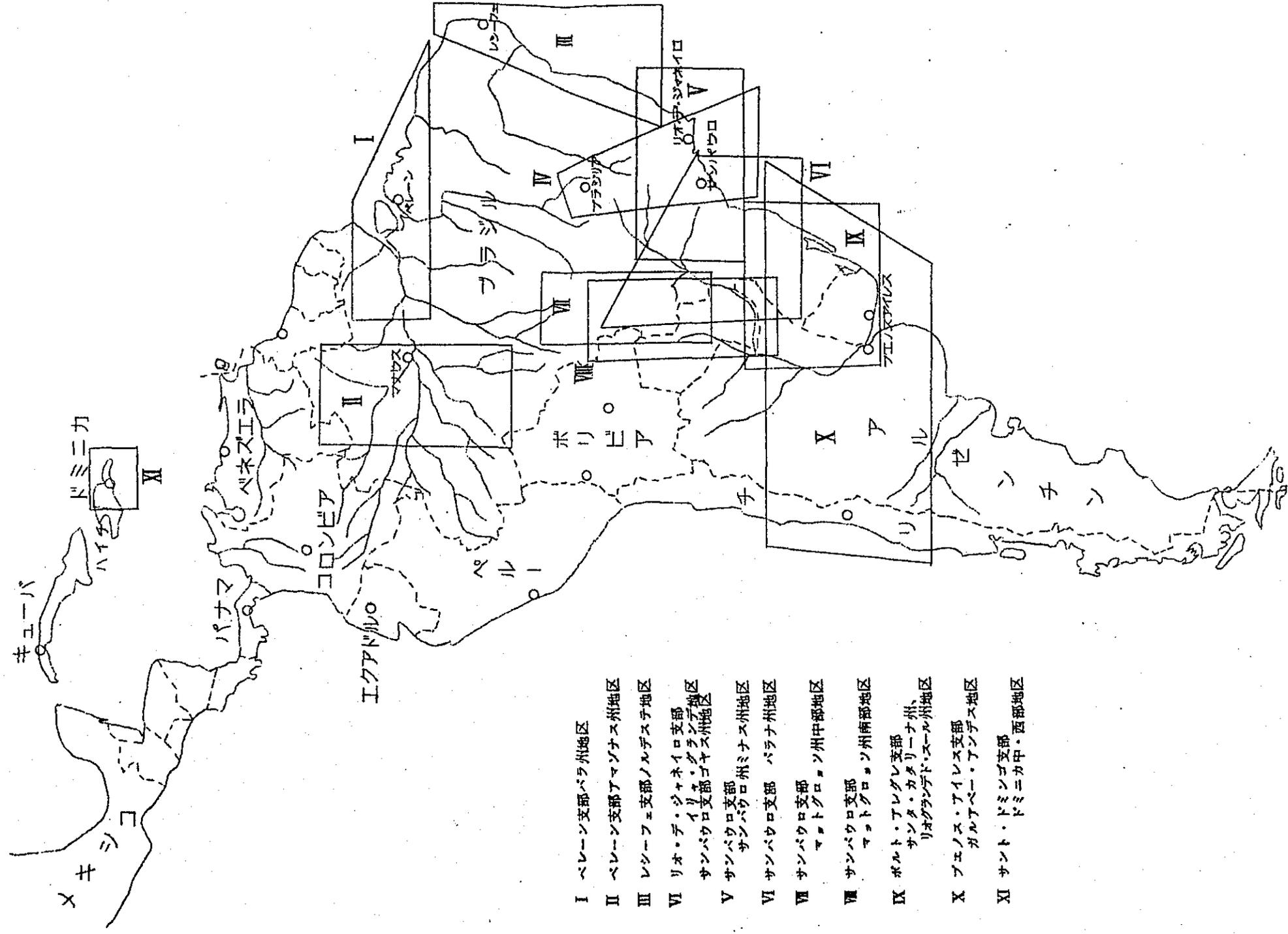
目 次

A, 昭和43年度巡回診療実施地区位置図

B, 巡回診療報告書要約

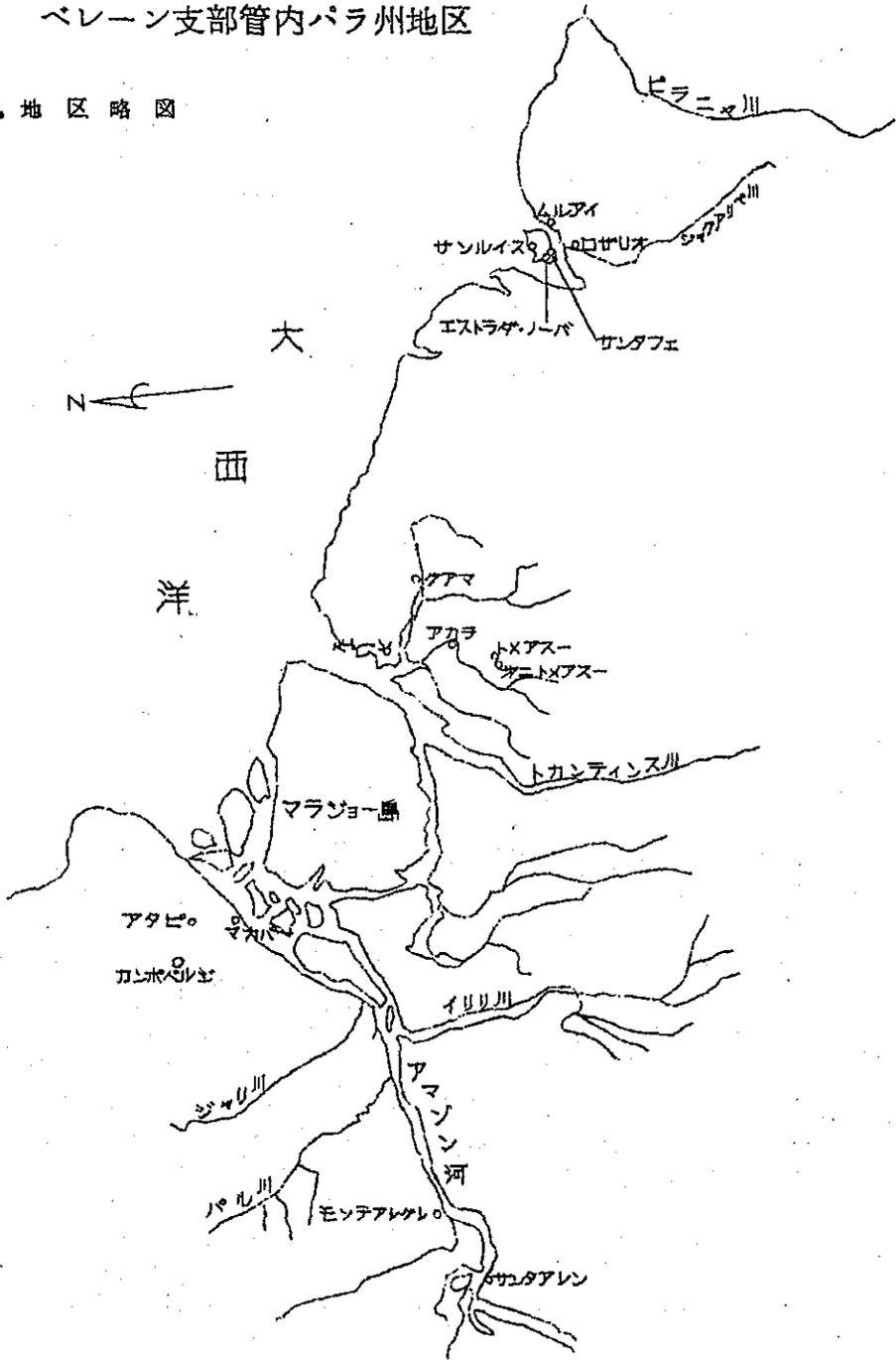
I	ベレーン支部管内パラ州地区	1
II	ベレーン支部管内アマゾナス州地区	9
III	レシーフェ支部管内ノルデステ地区	12
IV	リオ・デ・ジャネイロ支部管内イリャ・グランデ地区 及びサンパウロ支部管内ゴヤス州地区	18
V	サンパウロ支部管内サンパウロ州、ミナス州地区	24
VI	サンパウロ支部管内パラナ州地区	29
VII	サンパウロ支部管内マツトグロソ州中部地区	36
VIII	サンパウロ支部管内マツトグロソ州南部地区	42
IX	ポルト・アレグレ支部管内サンタカタリーナ州、 リオ・グランデ・ド・スール州地区	47
X	ブエノス・アイレス支部管内ガルアペー、アンデス地区	55
XI	サント・ドミンゴ支部管内ドミニカ中・西部地区	58

A. 昭和43年度巡回診療実施地区位置図



I, ベレーン支部管内パラ州地区

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
4, 12	医師 池田幹彦	ベレーン	オ1トメアスー	トメアスー
13			オ2トメアスー	ク
14		トメアスー		ベレーン
5, 4	医師 伊藤澄男	ベレーン	オ1トメアスー	トメアスー
5			オ2トメアスー	ク
6		トメアスー		ベレーン
6, 8	医師 池田幹彦	ベレーン	オ1トメアスー	トメアスー
9			オ2トメアスー	ク
10		トメアスー		ベレーン
6, 25	医師 池田幹彦	ベレーン	モンテ・アレグレ (アサイザール)	モンテ・アレグレ
26	助手 星野太郎	モンテ・アレグレ	モンテ・アレグレ (ドイス・ガーリョス)	ク
27		ク	サンタアレン	サンタアレン
28		サンタアレン	ク	ク
29		ク		ベレーン
7, 13	医師 伊藤澄男	ベレーン	オ1トメアスー	トメアスー
14			オ2トメアスー	ク
15		トメアスー		ベレーン

月日	巡回者名	出発地	診察地	宿泊地
8, 10	医師 伊藤澄男	ベレーン	オ1トメアスー	トメアスー
11			オ2トメアスー	◇
12		トメアスー		ベレーン
8, 21	医師 肥田正人	ベレーン	オ1トメアスー	トメアスー
22	助手 山内 登		オ2トメアスー	◇
23		トメアスー		ベレーン
9, 1	医師 伊藤澄男	ベレーン	アカラ	アカラ
2	助手 星野太郎	アカラ		ベレーン
9, 22	医師 池田幹彦	ベレーン	マカパー	マカパー
23	助手 山内 登	マカパー	マタビ カルポベルデ	◇
24			カルポベルデ	◇
25		マカパー		ベレーン
10, 27	医師 伊藤澄男	ベレーン	ムルアイ	サンルイス
28	助手 山内 登		エストラダノ ロザリオ, サンタフェ	◇
29		サンルイス		ベレーン
10, 9	医師 肥田正人	オ2トメアスー	オ1トメアスー	オ2トメアス
16		◇	◇	◇
23		◇	◇	◇

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
10, 30		オ2トメアスー	オ1トメアスー	オ2トメアスー
11, 6		◆	◆	◆
13		◆	◆	◆
20		◆	◆	◆
27		◆	◆	◆
12, 16	医師 池田幹彦	ベレーン	ベレーン近郊	ベレーン
	助手 山内 登			
	◆ 星野太郎			
12, 18	医師 池田幹彦	ベレーン	オ1トメアスー	ベレーン
12, 4	医師 肥田正人	オ2トメアスー	オ1トメアスー	オ2トメアスー
26		◆	◆	◆
1, 2		◆	◆	◆
8		◆	◆	◆
15		◆	◆	◆
22		◆	◆	◆
1, 9	医師 池田幹彦	ベレーン	グアマ	ベレーン
	助手 山内 登		(タカーノス ベルナンゴ)	
	◆ 星野太郎			

月 日	巡 回 者 名	出 発 地	診 療 地	宿 泊 地
2, 13	医師 池田幹彦	ベ レ ー ン	モンテアレグレ植民地	モンテアレグレ
14	助手 及川貞一	モンテアレグレ	◇	◇
15		◇	◇	サンタアレン
16		サンタアレン	サンタアレン	◇
17		◇		ベ レ ー ン
2, 5	医師 肥田正人	オ2トメアスー	オ1トメアスー	オ2トメアスー
12		◇	◇	◇
19		◇	◇	◇
26		◇	◇	◇
3, 5		◇	◇	◇
12		◇	◇	◇
19		◇	◇	◇
26		◇	◇	◇
3, 19	医師 池田幹彦	ベ レ ー ン		サンルイス
20	助手 アルノ・ ゴンサルベス	サンルイス	ロザリオ ムルアイ	◇
21		◇	エストラダノーバ	◇
22		◇		ベ レ ー ン
3, 25	医師 池田幹彦	ベ レ ー ン	ア カ ラ	ア カ ラ

月 日	巡 回 者 名	出 発 地	診 察 地	宿 泊 地
3, 26	助手 アルシノ・ ゴンサルベス	ア カ ラ		ベ レ ー ン
3, 30	医師 肥田正人	ベ レ ー ン	サ ン タ ナ マ カ バ ー	マ カ バ ー
31	助手 横山秀明	マ カ バ ー	カ ル ボ ベ ル ジ マ タ ビ	ク
4, 1		カ ン ボ ベ ル ジ マ タ ビ	マ カ バ ー	ク
2		マ カ バ ー		ベ レ ー ン

3. 疾 病 統 計

<受 診 者 数>

男	438人	大 人	599人
女	537人	子 供	376人
計	975人	計	975人

<疾 病 件 数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
感 冒	44	マ ラ リ ア	13
胃 炎	11	盲 腸	10
胃 潰 瘍	8	心 臓 病	18
肺 炎	6	肺 結 核	2
気 管 支 炎	2	高 血 圧	34

疾 病	件 数	疾 病	件 数
寄 生 虫 症	2 8	結 膜 炎	2 1
外 傷	4	白 内 障	2
神 經 痛 ・ リ ュ ー マ チ	2 6	外 ・ 中 ・ 内 耳 炎	1 0
扁 桃 腺 炎	2 0	農 薬 中 毒	3
ノ イ ロ ー ゼ	1 7	そ の 他	1 9 5
月 經 不 順	6	計	7 2 0
更 年 期 障 害	5		
皮 フ 病	3 1	健 康 診 断	3 0 2
皮 フ 潰 瘍	4	妊 婦 診 断	7 3

4. 巡 回 地 概 況

<オ1トメアスー移住地>

アマゾン河口ベレーン市(人口571,000人)より南120km(アカラ川水路220km)に位置し、384戸、2,264名の邦人が入植している。ビメンタを基幹作物として他に若干の蔬菜及び米を作っている。近年養鶏を導入し、ビメンタの肥料を自給しようとする積極的な努力がはられるようになった。

<オ2トメアスー>

オ1トメアスーの南32kmにあり、現在88戸、386名の邦人が入植している。営農については、前記オ1トメアスーとほぼ同じである。

<サンタアレン市>

ベレーン市より700kmに位置する人口105,000人の都市で、アマゾン中流域の農産物の集散地として栄えたこともあるが、現在はベレーン・マナウスの中間点に位置する寄港地としてその面影をとどめている。現在18戸約100名の邦人が在住しており、内9戸はサンタ

アレン市向け蔬菜の栽培を行っており、最近養鶏を少し取り入れている。

<モンテ・アレグレ移住地>

サンタアレンの東北87km(水路109km)に位置するモンテアレグレ町(人口10,000人)の北38kmにあり、現在邦人24戸143名の入植を見る。ビメンタを中心に米、豆類、タバコの雑作を組み合わせた営農を行っている。

<アカラ移住地>

ベレンより70km(アカラ川水路130km)のアカラ町(人口3,000人)の北方20kmに位置し、現在31戸186名の邦人がビメンタ栽培を行っている。

<マカバ市>

ベレンの北西450kmに位置し、人口67,000人の都市で、現在21戸38名の邦人が在住している。

<マタピー移住地>

マカバ市より北90kmに位置し、邦人6戸35名が在住している。

<カンボベルデ移住地>

マカバ市より北方130kmに位置し、4戸28名の邦人が在住している。

<ムルアイ移住地>

ベレンの東南東450km、サンルイス(人口222,000人)の南東30kmに位置し、9戸50名の邦人が在住している。蔬菜を営農の中心とし、サンルイスに供給している。

<エストラーダ・ノーバ移住地>

サンルイスの南西28kmに位置し、サンルイス向け蔬菜の栽培を行っている。

<ロザリオ移住地>

サンルイスの南80kmのロザリオ町(人口5,000人)から1.5kmの移住地で、現在5戸21名の邦人が残留しており、低地を利用し、蔬菜を栽培している。

<サンタフェ移住地>

サンルイスの南33kmに位置し、邦人4戸20名が在住しており、蔬菜栽培を行っている。

<ベレン市>

アマゾン河口に位置し、人口571,000人を擁する北伯才1の都市であり、貿易・交通の要点でもあり、ブラジルの北の門戸としてその名を知られている。更に北伯の文化・政治の中心でもある。

市内、近郊を含め、464戸、1978名の邦人が在住し、ビメンタを中心としているほか、

蔬菜、鶏卵、鶏肉を市内に供給している。

〈グアマ移住地〉

ベレーンより南東80kmに位置し、53戸、289名の邦人が在住し、ビメンタ及び水稻・蔬菜の栽培を行っている。昔農はほぼ安定しているといえる。

5, 診 療 概 況

アマゾン流域といえば、おそろしい熱帯病を考える人も多いのだろうが、今回の巡回の結果にも見る通り、顕著な熱帯風土病は出ておらず、マラリアも今ではそれ程おそれる病気ではなくなった。しかし、こうした熱帯病は住民の予防衛生に対する油断をついて発生するものであり、今後も気をゆるすことは出来ない。

又、後進地域共通の問題として、寄生虫の問題がある。飲料水に対する配慮は寄生虫ばかりでなく、他の流行病の源ともなるのであるから充分の注意を必要とする。

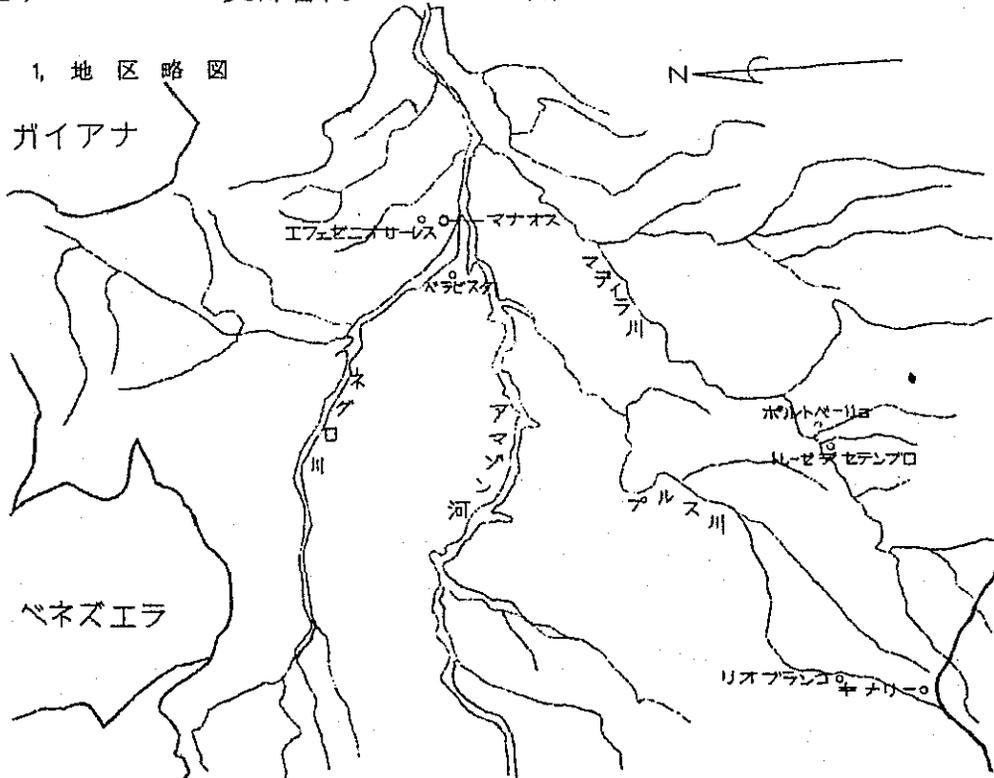
又、予防知識の普及も必要であることは言うまでもない。

Ⅱ, ベレーン支部管内アマゾナス州地区

1, 地区略図

ガイアナ

ベネズエラ



2, 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
12. 8	医師 肥田正人	ベレーン		マナウス
9	助手 山内 登		マナウス	〃
10	〃 野村昭夫	マナウス	エフェゼニオ・サレス	〃
11		〃		アクレ・リオブランコ
12		リオ・ブランコ	キナリー	〃
13		〃		ポルト・ベリー
14		ポルト・ベリー	トレゼデセテンプロ	〃
15		〃		マナウス
16		マナウス	ベラピスタ	〃
17		〃		ベレーン

3, 疾病統計
 <受診者数>

男	50人
女	31
計	81

大人	54人
子供	27
計	81

< 疾病件数 >

疾 病	件 数	疾 病	件 数
寄 生 虫 症	13	白 内 障	3
胃 潰 瘍	4	結 膜 炎	1
高 血 圧	4	皮 フ 病	1
貧 血	2	神 経 痛 ・ リ ュ ー マ チ	2
マ ラ リ ア	1	ノ イ ロ ー ゼ	2
胃 癌	1	そ の 他	17
胆 の う 炎	2	計	60
更 年 期 障 害	5		
内 耳 炎	1		
扁桃腺炎	1	健 康 診 断	21

4. 巡回地概況

< マナオス市 >

アマゾン河口、ベレーン市より1,400kmに位置し、人口254,000人で、アマゾン中流域の政治・経済の中心地であり、自由港となったことも原因して年々活況を呈している。

近郊を含めて32戸144名の邦人が在住しており、農業のほか商業方面にも活躍している。

< エフェゼニオサーレス移住地 >

マナオス市よりイタコチャラに通じる道路に沿い35km地点からはじまり、邦人62戸343名が、ピメント（胡椒）蔬菜・養鶏を組み合わせた営農を行い、年々発展を示している。

< キナリー移住地 >

マナオスの南西1,200kmのポルトベリ市（人口7万人）からさらに南西730kmポリビア国境に近い移住地である。現在邦人4戸27名が在住している。営農は雑作を中心とし、若干のゴム

等の永年作物を取り入れているが、自給体勢が或程度確立されていることから、経営状態は良い。

<トレゼ・デ・セテンプロ移住地>

ポルト・ベリ市市の南方9kmに位置し、現在22戸146名の邦人が在住し、ビメンタ、ゴム、蔬菜、養鶏を中心に営農を行っている。営農成績は比較的良いが、短期作物に力を入れすぎ永年作物が放置されている傾向がある。

<ベラピスタ移住地>

マナオスの南西6kmリオネグロ河の対岸に位置し、41戸229名の邦人がビメンタ、ゴム、ガラナ、蔬菜、養鶏等の営農に従事している。

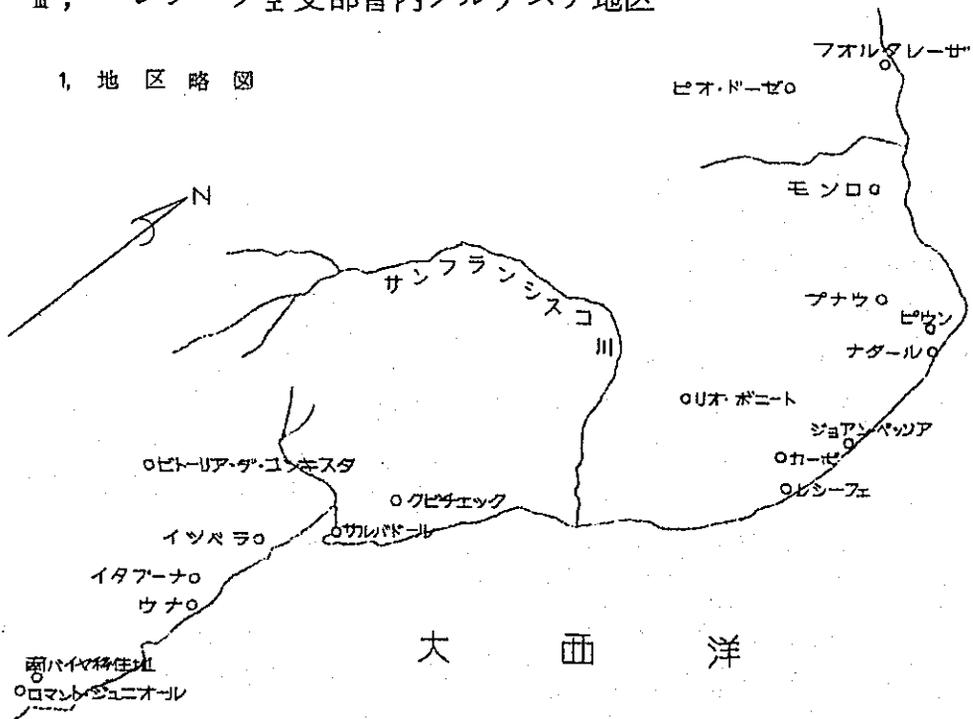
ビメンタ、ゴム、ガラナの値上りにより急速に営農は伸びつつある。

5. 診療概況

奥地移住地であるにもかかわらず、大体において衛生状態は良好であった。しかし、マナオス市内においても上水道の設備が悪く、眼病がかなりの数見られたし、寄生虫についてもまだまだ気をゆるせないことは言うまでもない。

Ⅲ, レシーフェ支部管内ノルデステ地区

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診察地	宿泊地
1, 6	医師 ジュバニウド・I.ゴメス	レシーフェ		モソロ
7	助手 ジョゼ・P.シケラ	モソロ		フォルタレーザ
8	〃 大浜伸三	フォルタレーザ	ビオ・ドーゼ	ビオ・ドーゼ
9		ビオ・ドーゼ		モソロ
10		モソロ	ブナウ	ブナウ
11		ブナウ	ビウン	ビウン
12		ビウン		レシーフェ
13			休日	
14		レシーフェ	カーボ	レシーフェ
15		〃	カルビーナ	〃
16			レシーフェ	
17			休日	
18			〃	
19			〃	
20		レシーフェ	リオ・ポニート	リオ・ポニート
21		リオ・ポニート		レシーフェ
2, 2	医師 アンゼロ・D.フィロ	サルバドール		ビトーリア・ダ・コンキスタ
3	助手 アントニオ・フィゲラ	ビトーリア・ダ・コンキスタ	南バイヤ植民地	南バイヤ植民地

月 日	巡 回 著 名	出 発 地	診 察 地	宿 泊 地
2, 4	助手 前川和久		(タカリ)	南バイヤ植民地
5			(ジュエラーナ)	ク
6			(エルベシア)	ク
7		南バイヤ植民地	ロマンτζュニオール	ロマンτζュニオール
8		ロマンτζュニオール		ウ ナ
9			ウ ナ	ク
10			ク	ク
11		ウ ナ		イ タ プ ナ
12		イ タ プ ナ	イ ツ ベ ラ	イ ツ ベ ラ
13		イ ツ ベ ラ		サルバドール
14			休 日	
15		サルバドール	クビチェック	クビチェック
16			ク	ク
17			ク	ク
18		クビチェック	ク	サルバドール

3. 疾病統計

< 受診者数 >

男	248人
女	239
計	487

大人	299人
子供	188
計	487

< 疾病件数 >

疾 病	件 数	疾 病	件 数
胃 潰 瘍	2	子 宮 筋 腫	1
高 血 圧 症	1	皮 フ 病	8
低 血 圧 症	2	扁 桃 腺 炎	2
感 冒	3	肝 臓 病	10
寄 生 虫 症	62	そ の 他	32
盲 腸 炎	1		
更 年 期 障 害	3	計	127

4. 巡回地概況

< ビオ・ドーゼ移住地 >

フォルタレーザ市(人口846,000人)の南西45kmに位置し、現在5戸30名の邦人が在住している。養鶏を中心に乾季のメロン、スイカ、蔬菜、雨季の米作を組み合わせた自給度の高い多角経営を行っている。生産物はフォルタレーザ市へ出荷している。移住地内には診療所(看護婦常駐)、小学校がある。中学校以上はフォルタレーザ市に出なければならない。

<ブナウ移住地>

ナタール市(人口240,000人)の西80kmに位置し、3戸14名の邦人が在住している。乾季のバナナ・メロン・蔬菜、雨季の米が首農の中心であり、生産物は主としてナタール市に出荷。医療施設としては近くのミリン市に総合病院がある。

移住地内に小学校があり、中学以上はナタール市に寄宿する。

<ピウン移住地>

ナタール市の西北20kmに位置し、雨季には米を、乾季にはメロン・スイカを栽培し、主としてナタール市に出荷するが、乾季にはレシーフェ市への出荷も行われている。現在10戸43名の邦人が在住している。

ナタール市に近いため、医療・教育などには恵まれている。毎週医師と歯科医の出張診療も行なわれている。移住地内に小学校があり、それ以上はナタール市に寄宿する。

<カーボ移住地>

レシーフェ市(人口1,100,000人)の西北35kmに隣接する移住地で、現在5戸30名の邦人農家が養鶏・果樹(マラクジャ・ぼんかん・ゴヤバ)・蔬菜を取り入れた多角経営を行っており、生産物はレシーフェ市に出荷している。

医療設備、教育施設(高校まで)もカーボ市内に完備している。

<カルビーナ地区>

レシーフェ市の北方パライバ州との境カルビーナ郡には、現在9戸32名の邦人が在住し、これらは分益農として移住した家族が独立したもので、蔬菜専業農家と複合農家(養鶏・果樹・蔬菜)に分れるが、専業農家の首農は苦しい。

なお、これら邦人農家はカルビーナ市を始めとする郡内各市町村の近く(バスで10分~20分)に住むため、医療、教育機関には恵まれている。

<リオ・ポニート移住地>

レシーフェ市の西方140kmに位置し、18戸112名の邦人が農業に従事している。蔬菜一辺倒の首農のため、経済的にもかなり困窮しているが、果樹等を取り入れた多角経営に移行し、再建をはかっている。生産物はレシーフェ市に出荷する。

医療設備としては、ポニート市の病院がIBRAとの特約により移住者に便宜を与えている。

移住地内には小学校があり、それ以上はポニート市(高校まで)か、レシーフェ市(大学まで)に寄宿している。

<南バイヤ移住地>

サルバドール市(人口898,000人)の南1,385Kmに位置し、47戸188名の邦人がヤシを主体とし、間作として蔬菜、スイカを取り入れた営農を行っている。生産物はナヌキ市、ウクトリアリオ市迄出荷している。

医療・教育施設ともカラベラス、ナヌキ市のものを利用している。

<ロマン・ジュニオール移住地>

サルバドール市より南1,450Kmに位置し、現在10戸58名の邦人がヤシを主作にし、トマト、ピーマン、莢インゲン、スイカ等蔬菜を栽培し、近郊都市へ出荷している。

医療・教育施設は移住地内になく、最寄りのカラベラス、ナヌキ市に出なければならぬ。

<ウナ移住地>

サルバドール市の南640Kmに位置し、邦人32戸152名が、永年作ゴム樹を中心にマンジョカ、蔬菜類を栽培し、ウナ、イタブナ市に出荷している。

移住地内に診療所があり、看護婦が1名常駐している外、医師の週1回の出張診療も行われている。教育施設としては小学校があり、中学以上はウナ、イタブナ市へ通学している。

<イツベラ移住地>

サルバドール市の南433Kmに位置し、現在8戸56名の邦人が在住している。永年作の丁字、ビメンタを中心とし、間作として蔬菜を栽培しており、生産物はイツベラ、サルバドール市へ出荷しており、営農も安定している。

移住地内に診療所があり、医師の出張診療(不規則)が行われている。又、イツベラ市にはイツベラ病院がある。

小学校は移住地内にあり、それ以上はイツベラ、サルバドール市に出る。

<クピチュック移住地>

サルバドール市の北70Kmに位置し、レモン、ビメンタ、ブドウ等の永年作に家畜を取り入れた多角営農に移行しつつあり、経済的にも安定に向いつつある。

移住地内に診療所があり、週2回医師及び歯科医が出張診療を行っている。又、移住地内に保健衛生連絡員が3人おり、衛生指導に当たっている。

小学校は移住地内にあるが、それ以上はマッタ・デ・サンジョン、サルバドール市へ寄宿している。

5. 診 療 概 況

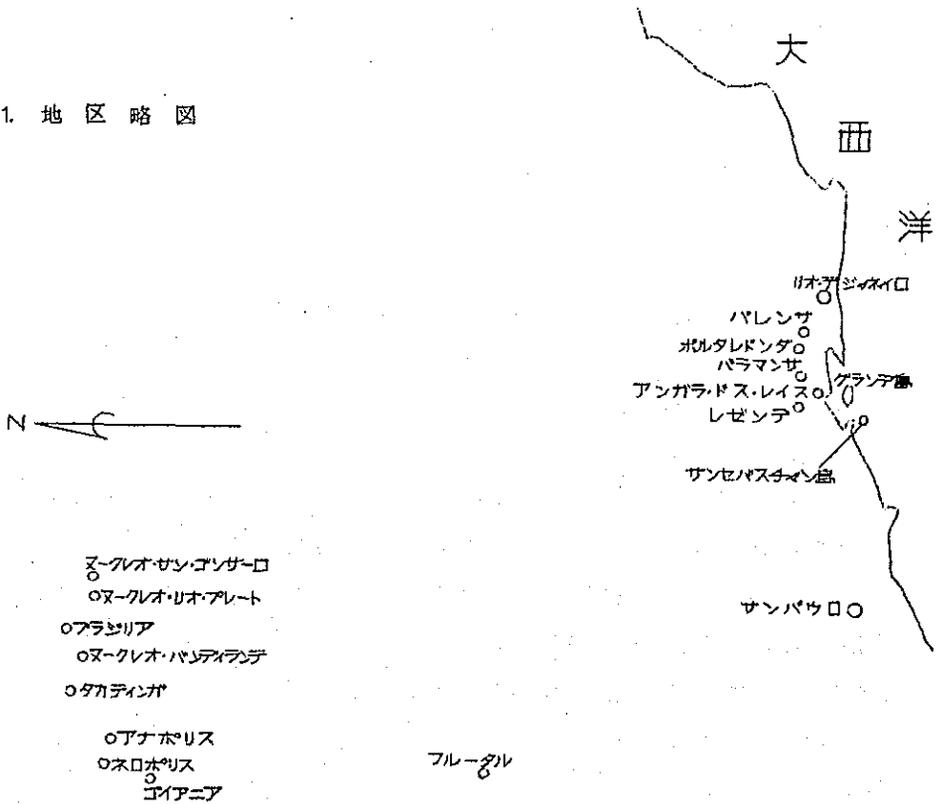
疾病統計に見られるように、寄生虫症が非常に多く見られるが、これは素足で農作業を行った

り、又、井戸水をそのまま飲料にする為であろうと考えられる。寄生虫といえども生命にかかわることもあるので十分に注意する必要がある。予防法として、素足にならないこと、汚水が井戸にながれ込まないようにすることなどが考えられる。又、少なくとも年に2回駆虫薬を服用するよう心がけるよう指導する必要がある。

その他では、歯の治療を必要とするものが非常に多かったが、出来るだけ早期に治療するよう注意したい。又、場所によっては、農薬の管理が充分でないので、農薬の散布・貯蔵に関する注意を、機会あるごとに喚起する必要がある。

IV, リオ・デ・ジャネイロ支部管内イリャ・グランデ地区 及びサンパウロ支部管内ゴヤス州地区

1. 地区略図



2, 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
11, 25	医師 武田義信	サンパウロ		フルータル
26	助手 岡良二	フルータル		ブラジリア
27	杉谷茂一	ブラジリア	ヌークレオ・サン・ゴンサーロ	ク
28		ク	ヌークレオ・リオ・プレート	ク
29		ク	ヌークレオ・バンディランテ	ク
30		ク	ク	ク
12, 1		ク	タクアティンガ	タクアティンガ
2			ク	ブラジリア
3		ブラジリア	アナボリス	アナボリス
4			ク	ク
5		アナボリス	ネロボリス	ゴイアニア
6			ゴイアニア	ク
7		ゴイアニア		サンパウロ
1, 14	医師 今田 求	サンパウロ		レゼンデ
15	助手 後呂貞明	レゼンデ	レゼンデ	バラ・マンサ
16	杉谷茂一		バラ・マンサ	
17		バラ・マンサ	ボルタレドンド	バレンサ
18			バレンサ	ク

月 日	巡 回 者 名	出 発 地	診 療 地	宿 泊 地
1, 19			パレンサ	アンガラ・ドス・レイス
20			アンガラ・ドス・レイス	イリヤ・グランデ
21			イリヤ・グランデ	◇
22		イリヤ・グランデ		サンパウロ

3, 疾病統計

<受診者数>

男	2 6 4 人
女	2 4 6
計	5 1 0

大 人	3 5 8 人
子 供	1 5 2
計	5 1 0

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
高 血 圧	3 4	胃 炎	1 1
低 血 圧	3 8	胃潰瘍・十二指腸潰瘍	4
貧 血	5 9	肝 臓 病	1 3
偏 食	8 0	心 臓 病	1 0
寄 生 虫 症	6 1	感 冒	2
ヴ ィ タ ミ ン 欠 乏 症	3 3	扁 桃 腺 炎	1 1

疾 病	件 数	疾 病	件 数
結 核	2	そ の 他	171
神 経 痛	8	計	720
更 年 期 障 害	3		
皮 フ 病	20	娠 婦 診 断	8
農 薬 の 影 響	52	検 便 154件	陽性 99
ト ラ ホ ー ム ・ 結 膜 炎	8	検 尿	16

4. 巡 回 地 概 況

<ヌークレオ・サン・ゴンサーロ地区>

ブラジリア市(人口390,000人)の東65km、標高800mの高原に位置し、風土病もなく、非常に健康地である。営農の中心は蔬菜で、最近果樹の植付が盛んである。現在邦人8戸が在住している。

<ヌークレオ・リオ・プレート地区>

ヌークレオ・ゴンサーロの西約10kmに位置し、標高1,000mの健康地で、現在30家族の邦人(戦後の移住者が多い)が蔬菜栽培に従事しているが、一部は果樹に移行しつつあり、3家族が養鶏を行っている。経済的には安定しており、動力を利用して貯水している。

<ヌークレオ・バンディランテ地区>

ブラジリアの西南8kmに位置しており、首都ブラジリアを中心に、周辺150家族2万人の邦人が在住しており、首都ブラジリアに供給する蔬菜を栽培する者が多い。なお、バンディランテ市内には水道設備も完備し、水洗便所である。

<タカティンガ地区>

ブラジリアの西25kmの新興都市タカティンガには約50家族が在住しており、商業などに従事している。周辺には約100家族の邦人農家が蔬菜栽培に従事している。なお、少数の者は養鶏を行っている。

タカティンガ市は人口8万人を数える新興の都市で、市内には各種設備が一応整っている。当地区は標高1,000m内外の高原地で、風土病もなく健康地である。

<アナポリス地区>

ブラジリアの西135kmに位置し、標高は1,000m内外。市内20戸周辺40戸の邦人が蔬菜を中心とした農業に従事している。生産物はブラジリア、ゴイアニアに出荷している。

以前はコーヒーの栽培も行われていたが、現在は振わない。なお、この地域は乾燥が強く、灌漑水設備が必要である。

<ネロポリス地区>

ブラジリアの西160kmに位置している。1929年、30余戸の邦人が入植したが、その後アナポリス、ゴイアニア等に転出し、現在わずかに5戸が蔬菜栽培と牧場経営に従事している。

営農状況は良く、それを認められ政府より地権を交付されている。

<ゴイアニア地区>

ブラジリアの南西約200kmに位置し、標高は800m前後。市内に20戸(商業が多い)周辺に40戸の邦人が在住し、多くは戦前の移住者であり、入植30年祭も昨年行われた。

営農の中心は蔬菜である。なお、ゴイアニア市日伯文化協会の活動範囲であるイニエーマス、ネロポリス、サンタ・フェレザ、フリミターチの4地区には約180戸の邦人が在住していると言われる。

<レゼンデ地区>

リオ・デ・ジャネイロ市(人口4,207,000人)の北西約130kmに位置し、市内6戸周辺10戸の邦人が在住している。この地帯は牧場が多いが、日系農家は蔬菜を主体とした近郊農業を行っている。

市内には高校までの教育機関及びサンタ・カーザ(慈善病院)の他、個人病院もあり、医療機関も完備している。

<バラ・マンサ地区>

リオ・デ・ジャネイロ市の北西約110kmに位置するバラマンサ市、及び市より6kmの地点サント・アントニオ耕地を診察する。

サント・アントニオは邦人入植以来22年を経過しており、現在7戸が半農半商の生活を営んでいる。

蔬菜を栽培しているが、気候の関係により年一回の栽培である。他に果樹栽培及び養豚を行っている農家もある。電気、水道もあり、水洗便所である。バラマンサ市は、市になってから、

132年になる古い町であり、数戸の邦人が移住している。

<ポルタ・レドンダ地区>

リオ・デ・ジャネイロ市の北西約100km標高400mに位置する新興都市で、バルガス大統領製鉄所があり、法科大学もある。

市内9戸周辺9戸の邦人が在住し、半農半商の生活を営む者が多い。野菜を主体とした首農である。

<バレンサ地区>

リオ・デ・ジャネイロ市の北西約90km標高541mに位置し、現在市内4戸周辺31戸の邦人が在住している。首農は野菜が主体で、20~30a1q（約50~75ha）の牧場を持ち乳牛を飼育するものが4戸ある。

市内には大学（法科・医科・歯科）、女子技芸学校等の教育機関、サンタカーズ、総合病院、養老院、孤児院等医療・福祉機関がある。

<アンガラ・ドス・レイス地区>

リオ・デ・ジャネイロ市の西約110km海岸に面する地区で、以前はアフリカからの黒人奴隷の上陸港とし、又、コーヒーの輸出港として盛えた。現在ではバランサ軽便鉄道（1930年）が通り、サンパウロ、リオ両市を結ぶ立派なアスファルト道路も開通しており、1960年にはペロルデ・エスタセイロ・ド・ブラジル造船（5万トン級の船が建造可能）が建設されており、新興工業都市として再び賑い始めている。

市内には師範学校の他水産学校の教育機関、養老院がある。

<グランデ島地区>

リオ・デ・ジャネイロの西方約100kmイリャ・グランデ湾に浮ぶグランデ島は、昔アフリカからの黒人奴隷を使いコーヒーを栽培したあとが見られ、奴隷を拷問した遺跡が往時をしのげせる。グランデ島は周囲約46km余、人口8,000人で、島内には耕地少く土着人がわずかにバナナ、マンジョカを植えているのみで、20数戸在住の邦人も漁業及びその加工業に従事している。

5. 診 察 概 況

ゴヤス州地区は、熱帯高原地帯で、蚊の発生はあまり見られないのでマラリヤはないと言われているが、最近ブラジル建設に東北伯より多くの労働者が移住して来ているので、今後マラリヤの発生の危険性がある。

2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診察地	宿泊地
5, 20	医師 木原 暢	サンパウロ		モコカ
21	助手 後呂貞明	モコカ	モコカ	イツペラーバ
22	◇ 杉谷茂一	イツペラーバ	グアラ	◇
23			イツペラーバ	
24		イツペラーバ	◇	ウペラーバ
25			ウペラーバ	◇
26		ウペラーバ	ウペランジア	イツペラーバ
27		イツペラーバ		サンパウロ
11, 9	医師 片山啓吾	サンパウロ	レジストロ	レジストロ
10	助手 坂根隆典	レジストロ	◇	サンパウロ
	◇ 岡 良二			
	◇ 松苗絹枝			
3, 11	医師 細江 静男	サンパウロ		ランチャリア
12	助手 奥原文雄		ランチャリア	◇
13	◇ 山下栄一	ランチャリア	アルバレス・ マンヤード	アルバレス・ マンヤード
14			◇	◇
15			◇	◇
16		アルバレス・ マンヤード		サンパウロ

3, 疾病統計

<受診者数>

男	165人
女	155
計	320

大人	221人
子供	99
計	320

他に58名(内訳不明)

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
高 血 圧 症	37	更 年 期 障 害	8
低 血 圧 症	16	神 経 痛 ・ リ ュ ウ マ チ	12
貧 血 症	42	皮 フ 病	6
心 臓 病	14	感 冒	7
胃 炎	14	鼻 炎	1
胃 潰 瘍	2	結 膜 炎	1
肝 臓 病	2	偏 食	29
ヴ ィ タ ミ ン 欠 乏 症	15	農 薬 の 影 響	14
寄 生 虫 症	23	そ の 他	122
気 管 支 炎	4		
扁 桃 腺 炎	6	計	375

疾 病	件 数	疾 病	件 数
検 便	3 0 1	検 血	2
検 尿	5 3	健 康 診 断	3

4. 巡 回 地 概 況

<モコカ移住地>

サンパウロ市(人口5,685,000人)の北約235kmに位置し、現在20戸の邦人が在住している。

本移住地は、養蚕移住地と呼ばれるように、養蚕は好調で、7家族が約4,000kgを生産している。他に養鶏、果樹があり、米作は自家用程度である。

電気も導入されており、移住地の将来は非常に明るい。

<グアラ地区>

サンパウロ市の北約370kmに位置し、以前は多数の邦人農家がコーヒー栽培に従事していたが、現在は市内在住者を含め約30戸の邦人農家が米、棉、大豆、トウモロコシ、野菜を栽培している。内4~5家族は米作を大規模にやっている。

この地区には風土病のシャーガスがあり、年1回、州政府衛生局より消毒班が巡回している。

<イッペラーバ地区>

サンパウロ市の北約380kmに位置し、コーヒーの全盛時代には4~500戸の邦人がその栽培に従事していたが、その後コーヒー栽培の衰微とともに多数がサンパウロ、カンピーナス方面に転出、現在市内18戸を含め約40戸の邦人が在住している。

コーヒー、米、棉、大豆、トウモロコシ等を栽培しており、首農状況もまずまずである。

市内にはサンタ・カーザがある。この地区にはシャーガス病の媒介虫バルベロー虫が多く見られ、州衛生局は年1回消毒薬を散布している。

<ウベラーバ地区>

サンパウロ市の北430kmに位置し、三角ミナスの中心地で、米作の盛んな頃は4~500戸の邦人が在住していたが、その後次第に減り、現在市内60戸周辺20戸の邦人が在住している。

市内には1954年創立のウベラーバ医科大学があり、2世助教授も居り、今後邦人もこれを利

用すれば医療面では大いに有益であろう。

本地区もバロペーロ虫があり、診療中にもシャーガス病による心臓障害者が1名見られた。

<ウベランジア地区>

サンパウロ市の北約55.5Kmに位置し、市内、周辺を合せ約20戸の邦人が在住している。かつては米作の中心であったが、現在はブラジリア街道上の交通の要点として活気を呈している。

市内にはウベランジア医学大学がある。

<レジストロ地区>

サンパウロ市よりクリチーバ街道を南下18.6Kmに位置し、約300戸の邦人が在住している。邦人移住地のうちでは最も古いものに属し、海外興業が開拓したものである。以前は米の産地として名高かったが、現在は茶の産地としてその名を知られている。他にバナナ、野菜の栽培も行われている。茶の価格は変動が激しく、雇用移住者の安定性がなく、又、バナナ、ソロカバナ線奥地の移住者の転入も多い。

市内には医療機関、文化施設等一応備っているが、20~30Km離れると交通の便も悪い。この地は高温多湿地帯で、以前より熱帯病の多発地帯であったが、最近その恐れもほとんどなくなりつつある。

<ランチャリア地区>

サンパウロ市の西北約43.5Kmに位置する。1930年頃棉、米、ミーリオの最盛期には、約400戸の邦人が農業に従事していたが、その後地力の減退に伴い、多数の退耕者を出し、現在は70戸の邦人が養鶏、蔬菜栽培等を行っている。最近牧場が増えている。

市内には高校まであり、医療機関も一応備っており、日系歯科医が1名いる。

<アルバーレス・マシャード地区>

サンパウロ市の北西約53.0Kmに位置し、189戸1,384名の邦人が在住している。多くは10~20alq (25~50ha)の土地を持ち、アモンドインを主作にし、ミーリオ、米、棉、ジャガイモの栽培を行っている。中には200alq (500ha)もの牧場を持つ者もある。

市内にサンタ・カーザがあり、医師も在住するが、多くは10Km離れたプレジデントブルデンチの完備した医療機関を利用している。

5. 診 療 概 況

ミナス州方面では、今なお風土病のシャーガス病が見られる地区もあるが、医療衛生機関が比較的整っている為、不安な点はない。

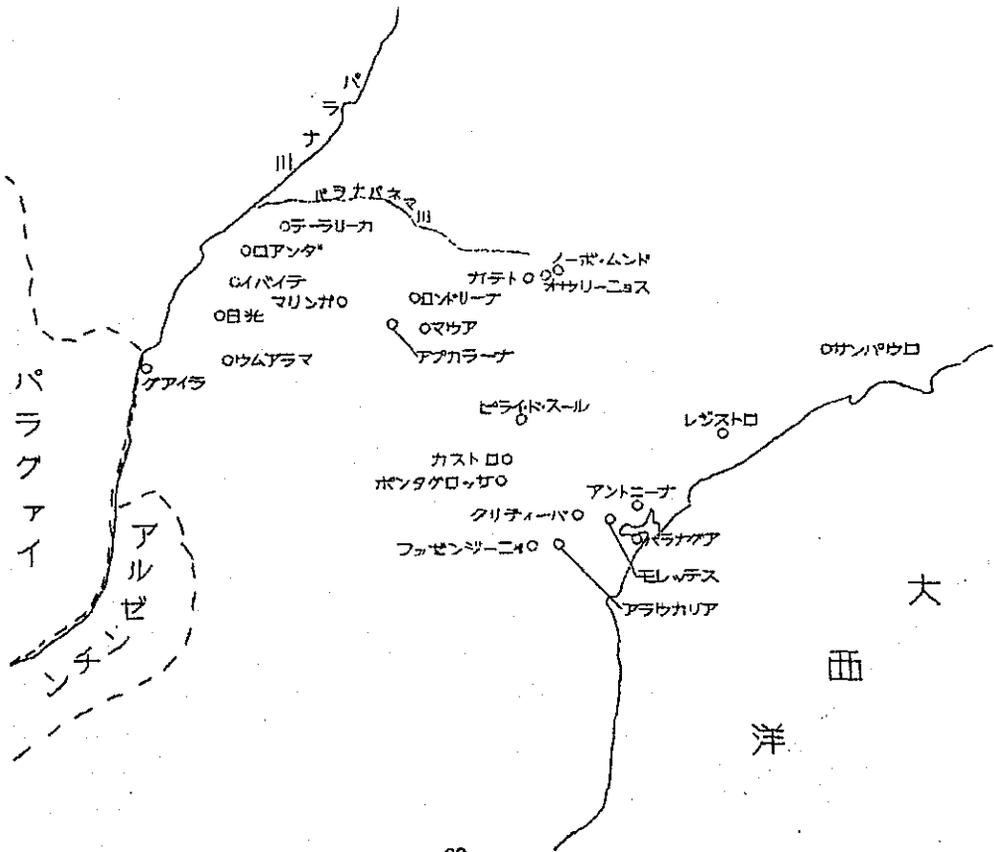
レジストロ地区は水道、電気もあり、以前流行したマラリア等熱帯風土病も影をひそめたが、今なお腸内寄生虫症の人が多い。毎年その割合は減っているものの、年2回の駆虫薬服用は必要である。

偏食等による栄養欠陥から来る疾病もかなり多く見られたし、過労からの疾病も多い。食生活の改善、過労にならぬような健康管理など、今後とも指導しなければならない。

最後に、ソロカバナ線地区については、マラリアも影をひそめ、あまり心配する点はないが、やはり寄生虫に対する注意は今後もおこたることはできない。

VI, サンパウロ支部管内パラナ州地区

1, 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
10, 21	医師 細江静男	サンパウロ	ノーボ・ムンド	ノーボ・ムンド
22	助手 古 娘杏	ノーボ・ムンド	カ テ ト	オウリーニョス
23	ク 後呂貞明	オウリーニョス		ウムアラマ
24		ウムアラマ		グ アイ ラ
25			グ アイ ラ	ク
26		グ アイ ラ		ウムアラマ
27			ウムアラマ	ク
28			ク	ク
29		ウムアラマ	日 光	イ ボ チ
30		イ ボ チ	イ ボ チ	ロ アンダ
31		ロ アンダ	ロ アンダ	テーラ・リーカ
11, 1			テーラ・リーカ	ク
2		テーラ・リーカ	ク	マ ウ ア
3			マ ウ ア	ク
4			ク	ク
5		マ ウ ア		レジストロ
6		レジストロ		サンパウロ
2, 27	医師 武田義信	サンパウロ		クリチーバ

月日	巡回/者名	出発地	診療地	宿泊地
2, 28	助手 杉谷茂一	クリチーバ	ポント・グロッサ	ポント・グロッサ
3, 1	ク 岡 良二	ポント・グロッサ	ク	カストロ
2			カストロ	ク
3		カストロ		クリチーバ
4		クリチーバ	アントニーナ	ク
5		ク	アラウカリア フアゼンディニャ	ク
6		ク	モレョテス	パラナグア
7			パラナグア	ク
8		パラナグア		レジストロ
9		レジストロ		サンパウロ

3. 疾病統計
 <受診者数>

男	416人
女	536
計	952

大人	559人
子供	393
計	952

< 疾病件数 >

疾 病	件 数	疾 病	件 数
高 血 圧 症	7 3	更 年 期 障 害	1 3
低 血 圧 症	4 5	神 経 痛 ・ リ ュ ー マ チ	1 8
貧 血 症	1 5 8	皮 フ 病	1 2
心 臓 病	5 1	感 胃	6
胃 炎	1 1	鼻 炎	3
胃 潰 瘍	1 1	結 膜 炎	4
肝 臓 病	2 3	偏 食	8 5
ヴ ィ タ ミ ン 欠 乏 症	3 6	農 薬 の 影 響	3 8
寄 生 虫 症	1 5 3	そ の 他	3 5 4
喘 息 ・ 気 管 支 炎	1 4		
扁桃腺炎	6 2	計	1,170
妊 婦 診 断	1 9	検 便	4 1
検 尿	2 4		

4. 巡回地概況

< ノーボ・ムンド移住地 >

サンパウロ市の西320kmに位置するオウリーニョス市の北東6kmにあり、標高480m。1年に1~2回の降霜を見る。現在18戸96名の邦人が果樹(ボンカン、ブドウ)栽培を行っている。1戸当り4alq(10ha)を持つ自作農で、全員オウリーニョス産組に加入している。又、共同のコーヒー園を持ち、移住地全体の費用はこれから出している。

電気、水道もあり、便所は水洗のところが多い。移住地の近くに伯語学校があり、中学、高校

はオウリーニョス市に出る。又、移住地内で週1回日本語学校が開かれている。

<カテト移住地>

オウリーニョス市の西南9Km、標高540mに位置し、年に1~2回の降霜を見る。

現在24戸160人の邦人が養鶏と果樹(ブドウ、柑橘類)を中心とする営農に従事している。大部分が15~40 alq(37.5~100ha)の土地を所有する。4~5戸は歩合作農で、全員オウリーニョス産組に加入している。

1964年に電化され、テレビを持つ家が5戸ある。移住地内に伯国小学校があり、中学、高校はオウリーニョス市に出る。又、日本語学校も開かれている。

<グアイラ地区>

サンパウロ市の西方約540Kmのマリンガ市より南西250Km、標高230mに位置し、年5回位降霜がある。

現在約150戸1,150名(推定)の邦人が棉、フェジョン、大豆を中心とする営農に従事している。大部分が10 alqの土地を所有する。2~3戸は歩合作農で、全部がコチア又は南伯の組合に加入している。

銀行から融資を受けているが、住宅は殆んど木造、便所も水洗式は殆んどない。

移住地内に伯語小学校が各地にあり、高校はクリチーバ市にある。又、日本語学校も開かれている。

<ウム・アラマ地区>

クリチーバ市(人口617,000人)の西北西650Km、標高550mに位置し、年2~3回の降霜を見る。

現在100戸500人の邦人がカフェー、棉、アモンドインを中心とする営農に従事している。大部分が10 alqの土地を所有し、南伯組合員が多い。

水道は市内の一部、殆んどが井戸使用。便所は50%が水洗である。

市内に伯語学校があり、中学、高校もある。又、移住地内に日本語学校が開かれている。

市内に事業団の特約医がいる。

<日光移住地>

ウム・アラマから42Km、標高500mに位置し、年に1~2回の降霜がある。

現在40戸300人の邦人がコーヒー栽培を中心とし、他に棉、ミーリオ、米、アモンドイン等の栽培に従事している。大部分が5~50 alqの土地を所有する。殆んどが南伯組合に加入している。

移住地内に伯語小学校があり、中学はドラジーナ市にある。日本語学校も開かれている。

<イヴァテ移住地>

日光植民地の25km先にあり、標高420mに位置し、年に1回位の降霜がある。

現在22戸120人の邦人がコーヒー栽培を中心とする普農に従事し、他に米、フェジョン、ミーリオ、棉の雑作がある。大部分が5~30a1qの土地を所有する。

日本語学校は、各戸間距離があるため開校されていない。

<ロアンダ地区>

ロアンダ市(人口15,000人)は、サンパウロ市の西方約500kmに位置し、北パラナ奥地の交通、経済の中心である。

現在60戸(市内50戸、郊外10戸)、約400人の邦人が野菜作りを中心とする普農をし、主力は商業(精米所・商店)であり、大農家では200a1qの土地を所有する。

市には奥北パラナオ1と思われる会館がある。移住地内に伯語学校があり、高商、師範まである。又、日本語学校も開かれている。

<テラ・リーカ移住地>

サンパウロ市の西方590kmパラナバイ市の西北58km、標高430mの位置にあり、降霜はある。

現在57戸の邦人がコーヒーと蔬菜栽培に従事している。最高200a1qの土地を所有している者もある。住宅は殆んど木造、農村はつるべ井戸、都市は掘り抜井戸である。

移住地内には伯語学校があり、日本語学校も開かれている。

<マウア移住地>

エストラーダ・デ・カフェに沿い標高1,100mの高原地帯に位置し、年により雪が降ることもある。現在100家族が在住し、小麦、大豆、米、トマトの他果樹(ブドウ、桃)の普農に従事している。大部分が10~85a1qの土地を所有し、コチア産組に加入している。

住宅様式は特別変化はないが、コチア産組の農協クラブがある。

移住地内に日本語小学校があり、中学は20km先のマリアンジーナ・ド・スール市に出る。

<ボンタグロッサ地区>

サンパウロ市の西南約340kmのクリチーバ市西方100kmに位置し、標高1,000mに近い高原地である。54戸の邦人が在住しており、機械化大農法でジャガイモ、小麦、米、大豆、ミーリオ、ソバ(ブラジルオ1の生産地)を栽培しており、他に牧畜もある。コチア産組員が多い。

ボンタグロッサ市には病院があり、教育機関も大学まである。

<カストロ地区>

クリチーバ市の西北100kmに位置し、標高1,000mの高原地である。67戸の邦人が大農法で、ジャガイモ、米、小麦、大豆、ミールオ、果樹の栽培を行っており、養鶏もとり入れられている。

市内には病院、薬局等医療機関、高校までの教育機関が備っている。又、当地には南パラナ唯一の奨学会（収容人員45名）があり、近郊の子弟を収容している。

<アントニーナ地区>

クリチーバ市の東北東55kmに位置し、高温多雨地帯である。現在7戸（市内2戸）の邦人が在住しており、蔬菜の時期外出荷を行っている。

医療・教育両機関ともにアントニーナ又はモレッテスいずれかの市に出なければならない。

<アラウカリア地区>

クリチーバ市の南25kmに位置し、現在50戸の邦人が本地区内に散在している。養鶏が非常に盛んであり、他にジャガイモ、トマト、果樹の栽培がある。地区内に伯語小学校、日本語学校がある。高校以上はクリチーバ市に出る。医療機関についても、クリチーバ市を利用している。

<ファゼンジーニャ地区>

クリチーバ市の南西75kmに位置し、ジャガイモ、トマト、果樹、養鶏を主体に20戸の邦人が営農にはげんでいる。

地区内に伯語小学校があり、中学はクリチーバ市に出るか、バスでアラウカリアに通学する。医療機関は地区内にはなく、クリチーバを利用することが多い。

<モレッテス地区>

クリチーバ市の東40kmに位置し、16戸の邦人が蔬菜の時期外れ出荷を行っている。市内には医師、薬剤師が在住している。教育機関も中学まではモレッテス市で間に合うが、それ以上は他の都市に出なければならない。

<パラナグア地区>

クリチーバ市の東78km、海に面した地区である。168戸の邦人が蔬菜の時期外れ出荷を行っている他、漁業に従事する者が数戸ある。

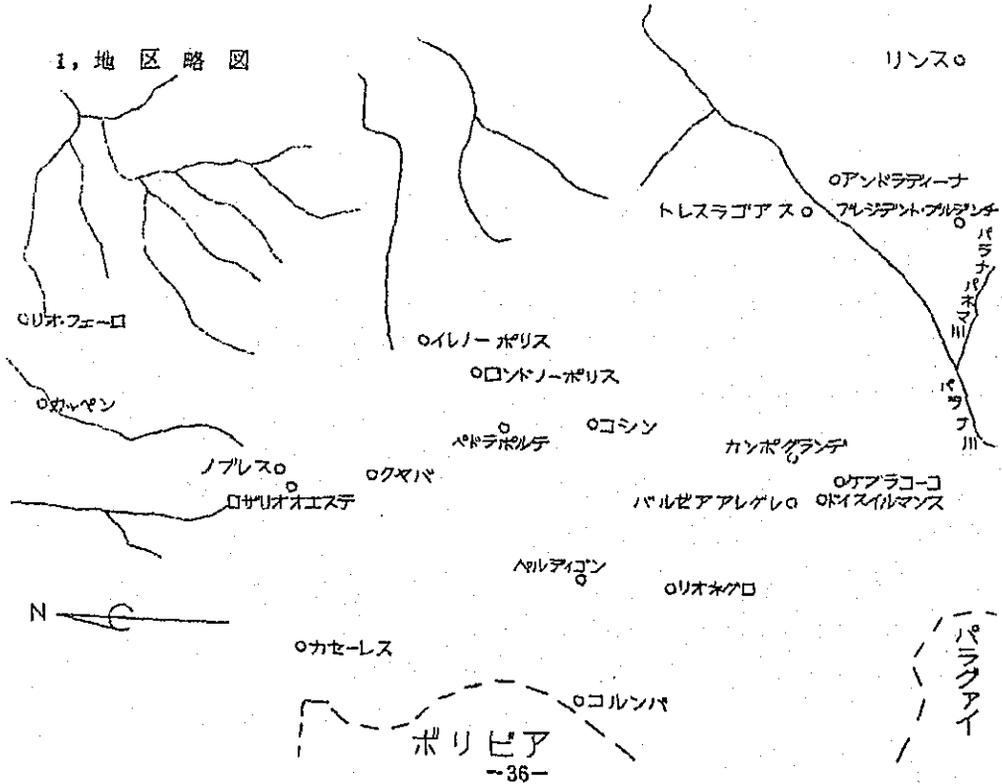
市内にサンタカーザがあり、又、日系医師も開業している。中学までの教育機関もあり、日本語学校も、日伯文化協会を利用し、開かれている。

5, 診 察 概 況

州の努力により、本地区は全体的にその環境衛生は良好である。又、数年前には見られたマラリア、アメーバー赤痢、ブラスト等も今回は見られなかった。しかし、中北部では歯の衛生には注意しなければならない。必ず歯をみがくことである。又、度々風呂に入り、身体を清潔にしなければならない。他に貧血が多く見られたが、これは偏食に起因するもので、肉、野菜は充分にとること（大人1日の適量、肉0.3Kg、野菜1Kg）。又、砂糖の取りすぎにも注意する必要がある。南部では美食（？）の為か、肥満症がめだち、循環器系統の疾患もかなり見られた。これも食生活を改善し、バランスの取れた食事をとるよう工夫すべきである。

なお、全体的には寄生虫の保有者がまだまだ多い。年2回の駆虫薬服用は当分必要であろうし、特に蔬菜地域では素足で外に出ないことが肝心である。又、今後農薬の害も予想されるので、その貯蔵法及び散布方法等につき、充分指導しなければならない。

Ⅶ, サンパウロ支部管内マツグロソ州中部地区



2, 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
8, 19	医師 木原 暢	サンパウロ		P・ブルデンチ
20	◇ 今田 求	P・ブルデンチ		カンボ・グランデ
21	助手 岡 良二	カンボ・グランデ		ロンドノーポリス
22	◇ 杉谷 茂	ロンドノーポリス	ロンドノーポリス	◇
23		◇		ノブレス
24		ノブレス		リオ・フェーロ
25		リオ・フェーロ	リオ・フェーロ	◇
26		◇	カッペン	
27				クイアバ
28		クイアバ	クイアバ	◇
29		◇	カセーレス	カセーレス
30		カセーレス	◇	イレノーポリス
31		イレノーポリス	イレノーポリス ベージャ・ブレタ	ベージャ・ブレタ
9, 1		ベージャブレタ		ベルディゴオン
2		ベルディゴオン	ベルディゴオン	リオ・ネグロ
3		リオ・ネグロ	リオ・ネグロ	カンボグランデ
4		カンボグランデ		◇
5		◇	ケブラ・コーコ ドイス・イルマンズ	ドイス・イルマンズ

月 日	巡 回 者 名	出 発 地	診 療 地	宿 泊 地
9, 6		トイス・イルマンズ	トイス・イルマンズ	カンボ・グランデ
7		カンボグランデ	パルゼア・アレグレ	◇
8		◇	カンボグランデ	◇
9		◇		リ ン ス
10		リ ン ス		サンパウロ

3, 疾 病 統 計
 <受 診 者 数 >

男	2 7 5 人
女	3 3 9
計	6 1 4

大 人	3 9 5 人
子 供	2 1 9
計	6 1 4

<疾 病 件 数 >

疾 病	件 数	疾 病	件 数
高 血 圧 症	1 6	胃 炎	1 6
低 血 圧 症	3	胃 潰 瘍	4
貧 血 症	2 0	肝 臓 病	5
心 臓 病	8	ウイタミン欠乏症	1 2
扁桃腺炎	6	寄 生 虫 症	8 5
感 冒	1 6	喘 息 ・ 気 管 支 炎	1 3

疾 病	件 数	疾 病	件 数
リ ュ ー マ チ ・ 神 經 痛	1 0	農 薬 中 毒	6
結 膜 炎 ・ ト ラ ホ ー ム	6	そ の 他	1 8 4
中 耳 炎	5	計	4 5 3
鼻 炎	1 2		
結 核	1	検 便	1 0 1
更 年 期 障 害	1	検 尿	1
皮 膚 病	2 4	妊 婦 診 断	1 4

4, 巡 回 地 概 況

<ロンドノーポリス地区>

マツグロツ州の州都クイアバ(人口87,000人)は、サンパウロの西北1,300km、首都ブラジリア(人口390,000人)の西880kmに位置する。このクイアバの南東180km、標高200mにロンドノーポリスは位置する。市内40戸を含め、100戸の邦人が在住している。(戦前50戸、戦後18戸、日系32戸) 土地は肥沃で、米を主作とし、棉、豆を栽培している。

<リオ・フェーロ移住地>

クイアバ市の北580kmに位置し、現在約30戸の邦人がビメンタ、ゴムの栽培を行なっている。ビメンタの質は良好で、高く評価されているものの、道路事情も悪く、これが本移住地発展のボトル・ネックとなっている。

<カッペン移住地>

クイアバ市の北550kmに位置し、現在4戸の邦人がビメンタ、ゴムを中心とした営農に従事している。しかし、リオ・フェーロ同様距離的に中心地と離れていること、以前にマラリアが発生したこと等、問題の多い移住地である。

<クイアバ地区>

マットグROSS州の州都とし、奥地の文化の中心地ではあるが、ブラジリアの西880Km、サンパウロの西北1,300Kmと、その地理的条件は悪く、発展は遅々として進んでいない。現在市を中心に60戸の邦人が在住しているが、農業従事者は内19戸であり、蔬菜を栽培している。

<カセーレス地区>

クイアバの西270Km、ボリビア国境まで100Kmの地点にある。現在市内19戸を含め40戸の邦人が在住しており、米作に従事する者が多く、他に牧場を経営する者が数戸ある。最近、奥地への入植者が増加し、この地も活気にあふれている。

市内には医療機関として保健所、教育機関としては師範学校がある。

<イレノーポリス地区>

クイアバ市の東190Km、標高500mに位置する。コーヒーの栽培も行われたが、花は咲くが結実せず失敗した。現在では12戸の邦人が米作を主に、豆類、トウモロコシ等を栽培している。土地は非常に肥沃である。

<ベドラ・ブレタ地区>

クイアバ市の南310Kmに位置し、最近 Rondノーポリスより独立郡制となっており、中心地に邦人薬局が1軒ある。

<ベルディゴン地区>

クイアバの南400Kmのリオ・ベルデより支道に入り東へ52Kmに位置する。ノロエステ方面の旧移住者がコーヒー栽培の為入植したが、木は育つが結実せず、現在では16戸の邦人が米を主作に豆、トウモロコシを栽培している。最近牧畜に力を入れる者が多くなってきた。

<リオ・ネグロ移住地>

マットグROSS州才1の都市カンボ・グランデの北西200Kmに位置し、現在米を主体に豆、トウモロコシの栽培が行われている。最近、養豚が盛んになりつつある。市街地には保健所があり、看護婦が常駐している他、道路も整備され、定期バスが通るなど、今後の発展に明るい材料が多い。

<ケブラ・コーコ地区>

カンボグランデ市の南100Kmに位置し、標高420m、気候良好の地である。現在14戸の邦人がコーヒーを中心に米、豆、トウモロコシの栽培を行っている。

<ドイス・イルマンス地区>

ケブラコーコの西30Kmの地点で、現在28戸の邦人がコーヒー栽培及び雑作を行っている。

本地区もケブラ・ココ地区と同様、気候良好の地であるが、井水の深いのが欠点。教育機関としては小学校までしかない。

<バルセア・アレグレ移住地>

カンボ・ベルデ市の西60kmに位置し、現在33戸の邦人が養鶏を主体とした営農に従事しており、カンボベルデの鶏卵はほとんどバルセア・アレグレ産である。

教育機関として、3年生までの小学校があるのみである。

<カンボグランデ地区>

マツグロソ州才1の都市で、経済・文化の中心であり、交通の要路として、サンパウロ州に開くマツグロソ州の門戸としての位置は高い。沖縄県人が多く、現在1,000戸近い邦人が在住している。衛生施設は完備し、日系二世の医師も在住している。

5. 診 察 概 況

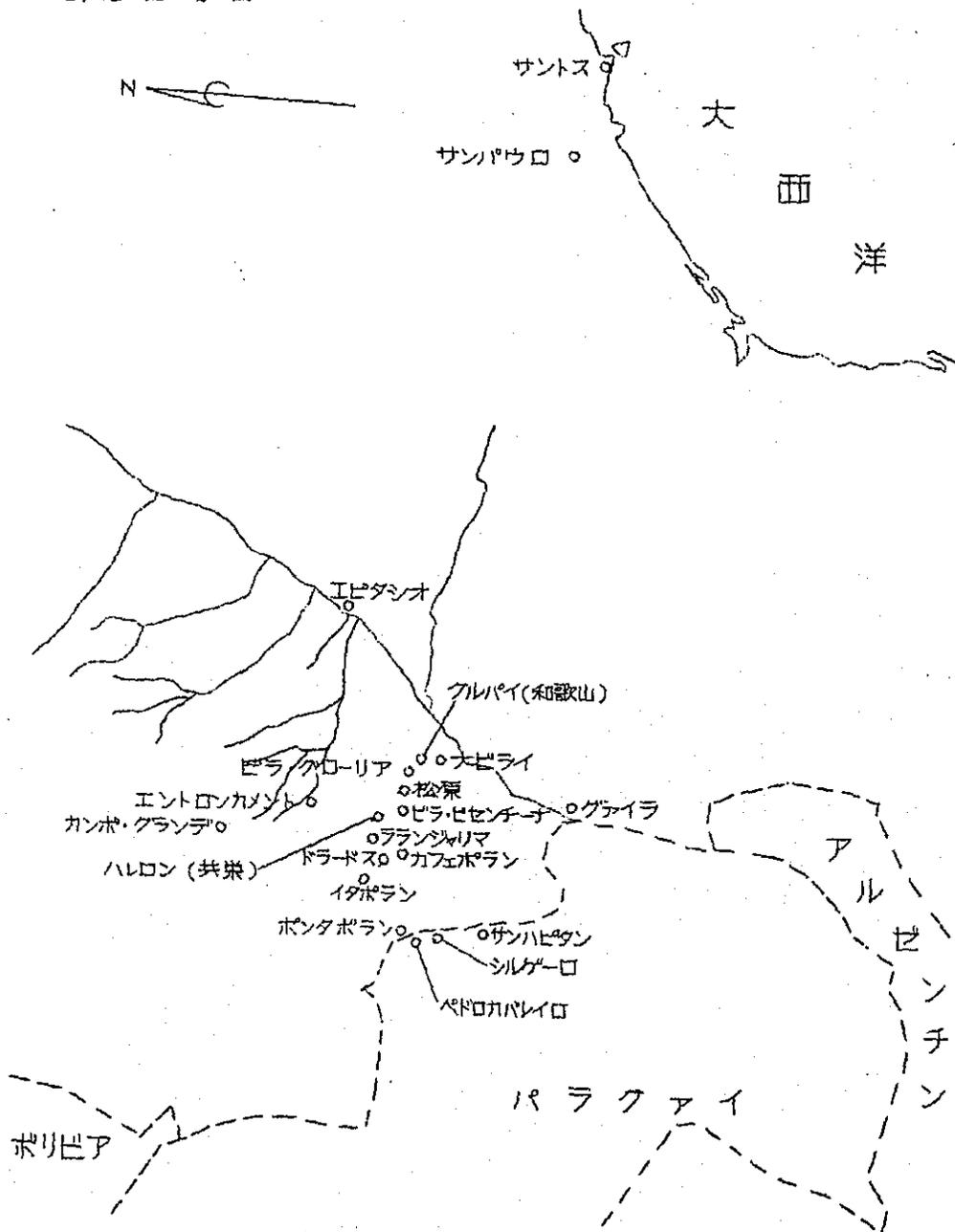
本地区も他の地区同様、寄生虫保有者が非常に多い。十二指腸虫、蛔虫が主で、他にじょう虫も見られる。子供達は素足で外に出るが、このため大部分が寄生虫卵の保有者となるのであろう。毎年駆虫剤を定期的に服用する必要がある。

次に消化不良というのが多いが、これは粗食、過労に起因しているように思える。労働意欲の旺盛なもの結構だが、身体のこと考え、食生活を改善し、適当な休養をとる必要がある。

貧血は寄生虫に起因するものであろう。マツグロソ奥地は以前マラリアの多発地であったが、現在では熱帯風土病として特記すべきものは見られなかったが、慢性マラリアがまだ見られた。まだ、D・D・T・散布等、予防対策は続ける必要があろう。又、カセーレスのようにジャガス病の中間宿主となるバロペーロ虫の多数発生している地域もあり、油断はできない。

VII, サンパウロ支部管内マツグロソ州南部地区

1, 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
6, 25	医師 今田 求	サンパウロ		ポルトエビタシオ
26	助手 後呂貞明	ポルトエビタシオ		ボンタ・ポラン
27	✦ 坂根ベドロ		ベドロ・ホワン カバレロ	✦
28			サンハピタン	✦
29		ボンタポラン	シルゲーロ イタポラン	ドラーダス
30			ドラーダス	✦
7, 1			カフェポラン	✦
2		ドラーダス	ナビライ	ナビライ
3		ナビライ		グロリア
4		グロリア	和歌山	和歌山
5		和歌山	松原	松原
6		松原		ドラーダス
7			ピラ・ピセンチーナ	✦
8			ハレロン(共栄)	✦
9			ラランジャリーマ	✦
10			バナンピ ドラーダス	✦
11		ドラーダス		リンズ
12		リンズ		サンパウロ

3. 疾病統計

<受診者数>

男	105人
女	123
計	228

大人	不明
子供	不明
計	228

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
高 血 圧 症	10	更 年 期 障 害	9
低 血 圧 症	1	神 経 痛 ・ リ ュ ウ マ チ	14
貧 血 症	11	皮 フ 病	17
心 臓 病	1	鼻 炎	6
胃 炎	11	偏 食	4
胃 潰 瘍	2	農 薬 の 影 響	4
肝 臓 病	1	そ の 他	129
グ イ タ ミ ン 欠 乏 症	1	計	250
寄 生 虫 症	16	検 尿	1
気 管 支 炎	2	妊 婦 診 断	17
扁 桃 腺 炎	11	健 康 相 談	1

4. 巡回地概況

<アマンバイ移住地>

サンパウロ西方約930Km、マツグロソ州との境、パラグアイ国アマンバイ県の県都ベドロ・ホワン・カバレロを中心に、210戸1,180人の邦人が散在しており、この周辺をアマンバイ移住地と呼んでいる。今回は、P, J, カバレロ、サンハビタン、シリゲーロ地区の診療を行なった。邦人の多くはコーヒーの栽培を行なっているが、毎年降霜の為、多大の被害を受けている。その為、米、トウモロコシ、小麦等の雑作、養鶏、養豚に転向した者も多い。しかし、パラグアイ奥地の感が強く、医療、教育、文化施設等においてはまだまだ不十分であり、ブラジル側のボンタ・ボラン市を利用する者も多い。

<ドラードス地区>

ドラードス市(サンパウロ市の西方約840Km、人口25,000人)を中心に、最近ドラードス郡より独立したイタボラン市、カフェボランを巡回する。

邦人は、コーヒー、米、トウモロコシ等の栽培を行っており、他に養鶏がある。

ドラードス市内には病院が4(221病床)あり、日系医師も在住している。教育機関としても高校、商業学校、師範学校、農学校等がある。

<ナビライ地区>

ドラードス市の東方135Km、パラナ河をへだてて、聖州の西南の先端と、北パラナの最西北端との三州の境に近い。パラナ河を渡れば更に45Kmで北パラナのノーバオリンピア、それから60Kmでパラナバイ、次いでマリंगाとなる。

現在22戸の邦人が在住しており、コーヒーの他、棉花、落花生を栽培している。

<クルバイ(和歌山)移住地>

ドラードス市の東150Kmに位置し、現在7戸の邦人がコーヒーをはじめ棉、落花生の栽培を行っており、最近、共同牧場による肉牛飼育を行なっている。

<松原移住地>

ドラードス市から45Km、年に1~2回の降霜がある。現在43家族の邦人がコーヒー栽培、雑作に従事しているが、毎年降霜があり、コーヒーは心配である。殆んど全部が和歌山県人。郡立小学校があり、生徒数40人(伯人生徒のみ)、郡立農学校が創立され、生徒数18人。意欲的な新興気分である。

<ピラ・ピエンテーナ地区>

ドラードス市の東方60Kmに位置し、現在27戸の邦人がコーヒーを主作に雑作を行なってい

る。

<ハレロン(共栄)移住地>

ドラードスから25km、半数の家族が自家カミニオン、自動車を持っている。北海道16家族、このうち6家族は戦前の移住者である。

<ラランジャリーマ地区>

ドラードスの東25km、現在18戸(上の区9戸、下の区9戸)の邦人が在住し、落花生、フェジョン、棉花、ミーリョを栽培している。霜が多いので、コーヒーには向かず、最近養豚やラランジャ、バナナを植える者が出ている。

<バナナビ地区>

ドラードスから25km、1950年に入植が始まり、現在7戸の邦人がいる。

5. 診 療 概 況

寄生虫保有者の多いのは、他地区と同様であり、駆虫剤の服用、素足で外に出ない等の基本的な予防策を徹底指導する必要がある。その他に目立つものとしては、虫歯が多いことであり、朝夕歯をみがくことが肝要。

その他特記事項なし。

Ⅷ、ポルト・アレグレ支部管内サンタカタリーナ州
 リオ・グランデ・ド・スール州地区

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
12. 18	医師 Jorge Osanai	ポルト・アレグレ	ソンプリオ	トーレス
19	〃 Jose C. Fauri	トーレス	トーレス・イタチ	オゾーリオ
20	〃 森口 幸雄	オゾーリオ	サンアントニオ	ポルト・アレグレ
1. 23	助手 José A. Brand	ポルト・アレグレ	カシアス・ド・スール バカリア	バカリア
24		バカリア	バカリア ラゴア・ベルメーリャ	パッソ・フンド
25		パッソ・フンド	パッソ・フントカラジ ニョ、クルス・アタ	イジュイ
26		イジュイ	イジュイ	サンボルジャ
27		サンボルジア	サンボルジャ	ウルグアイアナ
28		ウルグアイアナ	ウルグアイアナ アレグレッチ	アレグレッチ
29		アレグレッチ	ロザリオ・ド・スール サンガブリエル	サンタマリア
30		サンタマリア	サンタマリア	カジョイラ・ド・スール
31		カジョイラ・ド・スール	カジョイラ・ド・スール	ポルト・アレグレ
2. 13		ポルト・アレグレ	カマクワン リオ・グランデ	リオ・グランデ
14		リオ・グランデ	ベロッタス	ベロッタス
15		ベロッタス	ペドロ・オゾーリオ アロイオ・グランデ	バジュー
16		バジュー	バジュー リブラメント	リブラメント
17		リブラメント		ポルトアレグレ

月 日	巡 回 者 名	出 発 地	診 療 地	宿 泊 地
3. 15		ポルト・アレグレ	グラバタイ	ポルトアレグレ
16		◇	ベレンノボ、ラミー イタプアム	◇
3. 22		◇	サン・レオポルド、 ポルトン、モンテネグロ	◇
23		◇	モーロ・サンターナ ピアモン	◇
3. 29		◇	グアイハイボチ	◇

3. 疾 病 統 計

<受 診 者 数>

男	5 8 5 人
女	4 6 9
計	1, 0 5 4

大 人	5 3 4 人
子 供	5 2 0
計	1, 0 5 4

<疾 病 件 数> (主たるもののみ報告があった)

疾 病	件 数
歯科(むし歯又は歯そり炎)	4 9 3
扁桃腺炎	6 2
咽頭充血症	4 2
高血圧	1 0
低血圧	8
計	6 1 5

種 痘	8 2 1 件
破傷風ワクチン	5 1 6
小児マヒワクチン	1 7 6
破傷風・ジフテリア・ 百日咳混合ワクチン	7 6

4. 巡回地診療

<カベラ地区>

ポルトアレグレ市(人口933,000人)の北東280kmに位置し、現在4戸19名の邦人がトマト(6万本)を栽培している。

医療機関としては、ソンプリオに2名の開業医と小さな病院があるが、重病の場合クリシウマ市(60km)に行く。他に薬局が2軒ある。

ソンプリオには小・中学校及び常設映画館がある。

<トーレス・カンショエーラ地区>

ポルトアレグレの北東200kmに位置し、1戸6名の邦人がトマト、ピーマン、人参等を栽培しており、近く、早熟出荷のブドウ園造成に着手の予定。

地区中心に開業医、薬局各1があるが、病院は郡都トーレス市(20km)を利用する。地区内には小学校があるが、中学はトーレス市に出なければならない。

<イタチ移住地>

ポルト・アレグレ市の北東170kmに位置し、7戸36名の邦人が冬期にはトマト、夏期は人参の協同出荷栽培を行なっている。近く、パイナップル、柑橘、パパイヤ等の熱帯果樹栽培に移行する計画を持っている。

移住地隣接地に州立小学校があり、中学はオゾーリオ(60km)、トーレス(60km)にバス通学する。医療機関としては、地区内に病院(入院設備付)があり、医師が常勤している。又、病院内には薬局もおかれている。

<サント・アントニオ地区>

ポルト・アレグレの北東85kmに位置し、現在4戸10名の邦人が在住している。内2家族は市街地にて蔬菜、花卉の周年栽培を行なっている。他は単身青年2人で、現在トマト等果菜の栽培を行なっているが、近くイタチ移住地に転住の計画を持つ。

市内には総合病院(医師10名位)もあり、郊外に小・中学校もある。

<カシアス・ド・スール、バカリア地区>

カシアス・ド・スール地区は、ポルト・アレグレの北120kmに位置し、蔬菜栽培を行なっており、高冷地の利を生かした夏季の花弁及び野菜の出荷は順調である。

バカリア地区はポルト・アレグレ市の北約250kmに位置し、トマト、キャベツ、花卉及び野菜を栽培している。

邦人は両地区を合せ18戸59名である。両地区とも市街地には病院も完備しており、教育に

も便利である。

<ラゴア・ベルメーリヤ地区>

ポルト・アレグレの北300kmのラゴア・ベルメーリヤ市(人口30,000人)の郊外4~8kmに7戸31名の邦人が在住している。標高約800mで、土地は肥沃である。現在トマト、馬鈴薯を主作にしているが、最近集団で温帯果樹園を検討中である。

市には立派な病院があり、部落内に小学校(分教場)がある。

<パソ・フンド、マラウ地区>

ポルト・アレグレの北約350kmに位置し、両地区合せて7戸20名の邦人が在住している。パソ・フンドの3戸は市内で果物野菜店を営んでおり、内1戸は蔬菜栽培との兼業である。マラウの4戸は、車輛修理業が2戸で、他は雑作、養豚である。

市内には開業医が居るが、日本語が通じず困ることも多いと言う。教育機関としては、義務教育程度については両地区とも問題はない。特にパソ・フンド市(人口60,000人)には農科大学まである。

<カラジーニョ地区>

パソ・フンド市の東35km、カラジーニョ市の郊外(3km)に2戸13名(兄弟)の邦人が野菜の共同栽培を行なっている。

市内には入院病棟完備の病院があるが、言葉の通じない点が不便である。高校まではカラジーニョ市に通学している。

<クルス・アルタ地区>

ポルト・アレグレの北西約400kmに位置し、8戸(内単身2)34名の邦人が在住している。トマトを中心とする蔬菜栽培が主である。

クルス・アルタ市(人口約50,000人)はリオ・グランデ・ド・スール州西北部最大の都市で、商業の中心として活気があり、医療・教育施設も十分に整備されている。

<イジュイ地区>

ポルトアレグレの北西約500kmに位置し、13戸(内単身6)40名の邦人がトマトを中心とする蔬菜栽培を行なっている。

邦人はイジュイ、サント・アンジェロ、サンタローザの3市近郊に在住しており、医療・教育機関も大体整備されている。

<サンボルジャ地区>

ポルト・アレグレの北西約700km、ウルグアイ川に面する地区で、8戸(内単身3)22

名の邦人が在住し、トマト、馬鈴薯を中心とする蔬菜の栽培を行なっている。

サンボルジャ市(人口30,000人)には、医療機関としては病棟付病院があり、高校までの教育機関も完備している。

<ウルグアイアナ地区>

ポルト・アレグレの西約780km、アルゼンチン及びウルグアイ国境の近くに位置し、5戸(内単身1)22名の邦人が在住している。単身青年を除いては商業との兼業で、蔬菜の栽培を行なっている。

アルゼンチンに通ずる要点として、人口5万のウルグアイアナ市は非常に活気のある町で、医療・教育施設にも不足はない。

<アレグレッタ地区>

ポルト・アレグレの東約730km、アレグレッタ市(人口60,000人)の郊外10~15km位で、6戸(内単身2)19名の邦人が蔬菜の栽培に従事しているが伸び悩んでいる様子。

アレグレッタ市は水田米、肉牛の集散地として栄えており、市内には総合病院、救急病院があり、高校までの教育機関も備っている。

<ロザリオ・ド・スール、サン・ガブリエル地区>

ロザリオ・ド・スールはポルト・アレグレの東約540km、サンガブリエルは同じく410kmに位置し、合せて6戸(内単身4)8名の邦人が在住している。

ロザリオ・ド・スールには1家族(蔬菜栽培)、サンガブリエルには果物店2(2戸づつの共同)及び蔬菜栽培1の計5戸がいる。

全員市街地の近くに住んでいるため、医療及び教育(中学まで)施設にも問題はない。

<サンタ・マリア地区>

ポルト・アレグレの東約380kmに位置し、26戸146名の邦人が在住している。内8戸は商業(果物野菜店、食料品店)、3戸は農業兼野菜店、他の15戸は市から5~6kmの地域で蔬菜栽培に従事している。

サンタ・マリア市は人口15万、総合大学を擁する近代都市で、医療施設にも問題はない。

<カシ・エイラ・ド・スール地区>

ポルト・アレグレの東約230kmに位置し、8戸42名の邦人がトマトを中心とした蔬菜栽培に従事している。この地一帯はリオ・グランデ・ド・スール州才1の水田米作、牧畜地帯で、カシ・エイラ・ド・スール市(人口30,000人)はその集散地として将来の発展も約束されているようである。

医療、教育、その他文化面での環境も申し分ない。

<カマクワン地区>

ポルト・アレグレの西南約120kmに位置し、4戸19名の邦人が在住している。1戸は市内で野菜、花卉栽培のかたわら、ラジオ修理業を営んでおり、他は郊外5~10kmの地域でトマトを中心とする蔬菜栽培に従事している。

市内に総合病院、高校までの教育施設は完備している。

<リオ・グランデ地区>

ポルト・アレグレの南約335kmに位置し、7戸(内単身3)21名の邦人が在住しており、トマト、酪農を中心とした営農を行っている。

リオ・グランデ市は人口150,000人の港町で、法・医科の大学もあり、交通の便も良いので、医療、教育面での心配は少ない。

<ペロッタス地区>

ポルト・アレグレの南南西約300kmに位置し、35戸約180名の邦人がトマトをはじめとする蔬菜を栽培している。

ペロッタス市は人口20万の都市で、病院、教育施設等完備している。

<ベドロ・オゾーリオ、アロイオ・グランデ地区>

ベドロ・オゾーリオはポルト・アレグレの南西約350km、アロイオ・グランデは同じく400kmに位置し、合わせて4戸(内単身1)18名の邦人が在住している。両地とも市街地に小規模の病院がある。教育面では市街地に近く在住しているため問題はない。

<バジェー地区>

ポルト・アレグレの南西約450kmに位置し、14戸(内単身2)80名の邦人が在住している。6戸はバジェー市(人口10万人)で商業を営んでおり、残り8戸は市から2~3kmの地域でトマトを中心とした蔬菜の栽培を行なっている。

バジェー市は牧畜、畜産加工の町として、非常な勢いで発展している裕福な町で、医療、教育(大学まで)の機関も良く整備されている。

<リブラメント地区>

ポルト・アレグレの西南西約590kmに位置する、ブラジル側リブラメント市(人口6万人)及びウルグアイ側リベラー市(人口5万人)の近郊、比較的便利な地区に6戸(内単身1)28名の邦人が在住している。全戸トマトを中心とする蔬菜栽培に従事している。

医療・教育機関とも、ほぼ満足できる状態であるが、言葉の問題があり、重い病気の場合を心配する向もある。

＜ポルト・アレグレ近郊地区＞

ポルト・アレグレ市近郊には、市内150戸を含め約234戸800名（推定）の邦人が在住している。イボチ地区で29戸がブドウ栽培と養鶏を組み合わせた営農を行なっている他は、多くはトマトを中心とする野菜栽培を行なっている。

医療、教育とも、ほぼ満足できる状態であり、重病の場合は日本人会連合会の生活相談部が通訳をし、入院等の斡旋をしている。

5. 診 療 概 況

概して、移住地が地方の中心都市に近いため、生活環境はまずまずと言える。それだけに衛生管理上特に注意すべき点はなかった。しいてあげるならば、食生活のバランスについて注意を要する地域があった。特に単身者は生活が不規則であり、かたよった食事をとっているようである。

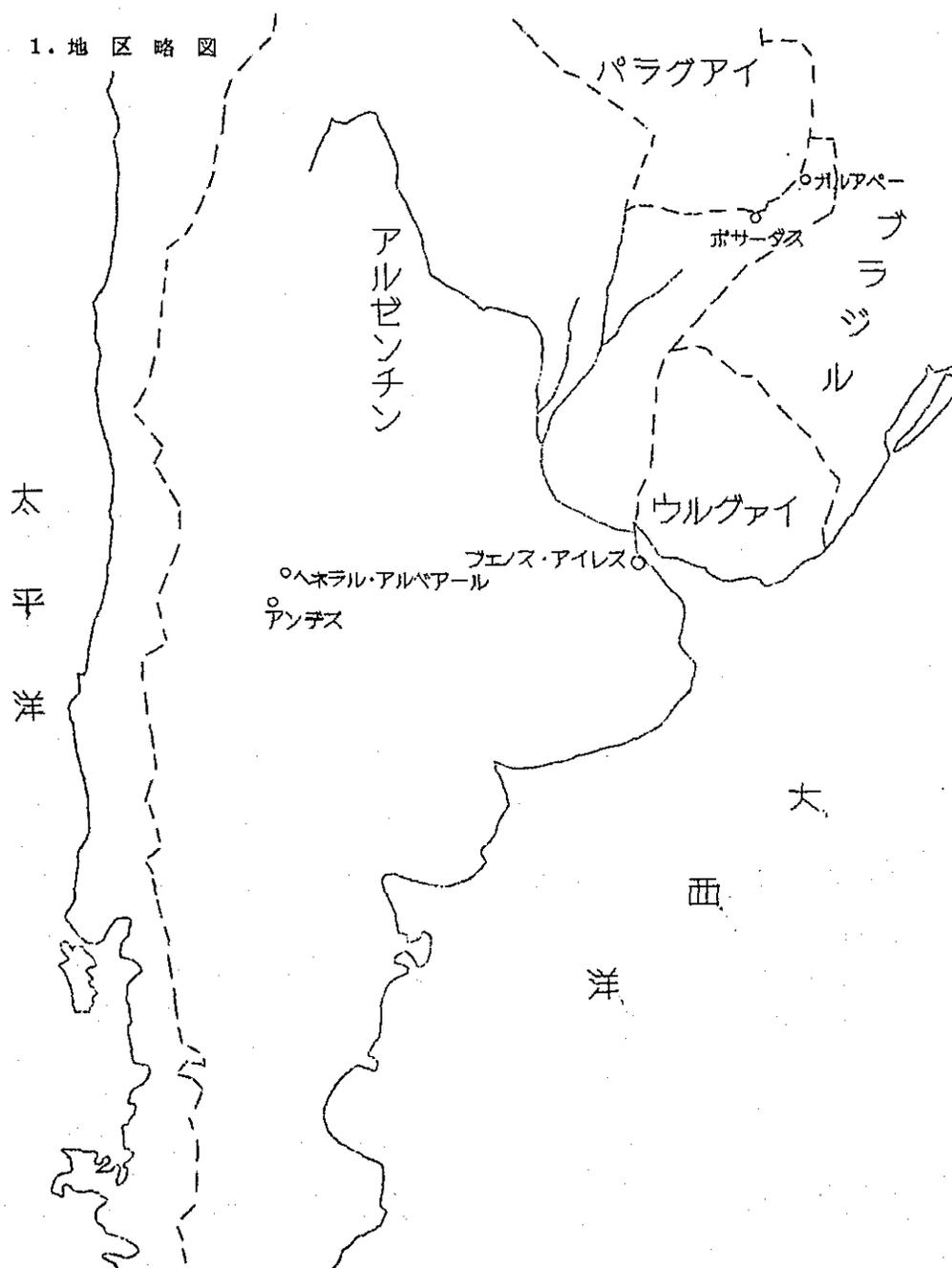
次に、やはり寄生虫の問題である。移住者の中には素足で作業をすること、あまりにも無関心なものが見られた。

生活環境の面から言えば、便所の改良、井戸に対する注意が特に目についた。1・2の地区では井戸水が塩分を含んでいたようだ。

又、急患に対して急救薬品を常備し、急救処置の方法を学んでおくべきだと感ずる地区もあった。幼児の予防接種を行っていない場合が多いが、今後、市内の保健所と連絡をとり、出来る限り予防接種を受けるよう努力して欲しい。

X, フェノス・アイレス支部管内ガルアペー, アンデス地区

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
8. 14	医師 新里フーリオ	ブエノスアイレス		ボサーダス
15	♪ 古庄マーベル	ボサーダス		ガルアペー
16			ガルアペー	♪
17			休日	♪
18			ガルアペー	♪
19		ガルアペー		ブエノスアイレス
2. 26	医師 新里フーリオ	ブエノスアイレス		G・アルベール
27	♪ 古庄マーベル		アソデス	♪
28			♪	♪
29		G・アルベール		ブエノスアイレス

3. 疾病統計

<受診者数>

男	45人
女	56
計	101

大人	60人
子供	41
計	101

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 疾 病	件 数
内 科 ・ 小 児 科	7 9	耳 鼻 科	1 1
産 婦 人 科	8	歯 科	2
外 科	2		
皮 フ 科	9	計	1 1 1

4. 巡 回 地 概 況

<ガルアペー移住地ルハンB>

ブエノス・アイレス市(人口3,500,000人)の北東約1,200Kmに位置し、現在42戸208人の邦人が、柑橘、ツング(油桐)、タバコ、トウモロコシ等の栽培を行なっている。

移住地内に診療所があり、正看護婦、看護婦見習が各1名常駐している他、ガルアペー村の開業医が週2回勤務している。

教育機関としては小学校があるが、それ以上は、プエルトリコ(25Km)、エルドラード(80Km)、ボサーダス(175Km)に出なければならぬ。

<アンデス移住地>

ブエノス・アイレス市の西約900Kmに位置し、現在23戸100名の邦人が在住している。ブドウ、桃の果樹及び蔬菜(トマト、メロン)の栽培が行われている。

医療機関としては、約14Km離れたヘネラル・アルベールの市立病院を利用する。なお、月1回程度、本病院の医師が移住地に出張診療を行なっている。

移住地内には小学校はなく、2.5Km程離れたところに通う。中学以上はアルペアル、サンラフアエル等に出る。

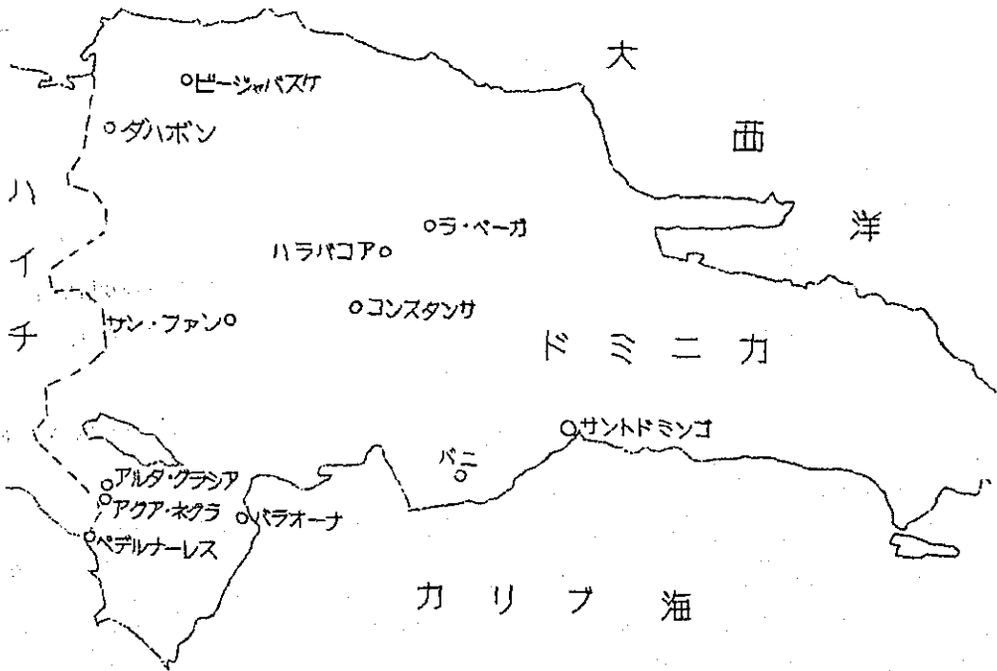
5. 診 療 概 況

他の南米諸国に比較し、衛生状態は非常に良好である。しかし、今回診療を行なった両移住地共、遠隔地にあるため、医療機関については充分であるとは思われない。特にガルアペーはその感強く、今回も2名の重症者をブエノスの病院に入院手配しなければならなかった。その他、

健康管理について特記すべき点はなかった。

XI, サント・ドミンゴ支部管内ドミニカ中・西部地区

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
12. 18	医師 一戸信一	ダハボン	ビージャバスケ	ラ・ペーガ
19	助手 一戸スマ		ラ・ペーガ	〃
20		ラ・ペーガ	ハラバコア コンスタンサ	コンスタンサ
21		コンスタンサ	サント・ドミンゴ	サント・ドミンゴ
22			〃	〃
23		サント・ドミンゴ		ダハボン
24			ダハボン	〃
2. 8	医師 一戸信一	ダハボン		サント・ドミンゴ
9		サント・ドミンゴ	バニ バラオーナ	バラオーナ
10		バラオーナ	アルタ・グラシヤ アグア・ネグラ	ベデル・ナーレス
11		ベデル・ナーレス	サンファン	サント・ドミンゴ
12		サント・ドミンゴ		ダハボン

3. 疾病統計

<受診者数>

男	7人
女	8
計	15

大人	10人
子供	5
計	15

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
内 科 ・ 小 児 科	1 0	精 神 科	2
外 科	1	歯 科	1
皮 膚 科	2	計	1 6

※種 痘 211件

4. 巡 回 地 概 況

ドミニカは亜熱帯海洋性気候であり、サント・ドミンゴは海岸に位置し、湿度が高いが、600～1,200mの高原に位置するハラバコア、コンスタンサ等では真夏でも案外涼しい。ダハボン
は海岸に近いものの平地にあるため相当に暑い。

南西部のアグラ・ネグラ、アルタグラシア地区は標高400～900mで、比較的涼しい。

現在ドミニカ国には3国営移住地をはじめ、27カ所に140戸567名の邦人が在住しており、蔬菜、米を中心とした営農を行なっている。

アグア・ネグラ（アルタグラシアを含む）地方では、永年作物としてコーヒーをとり入れている。小さな島国であり、医療機関も各地に設置されている。移住者は主に国立病院を利用している。

5. 診 療 概 況

従来、マラリア、黄熱、腸チフス、赤痢等流行病の多発地であったが、衛生設備の改善等国家の積極的努力により、現在ではこれといった風土病も見られなくなった。

その他特記すべき事項なし。



LIB